第４回男女共同参画セミナーを終えて

＜プログラム＞
・会長挨拶　戸部博（京都大学名誉教授）
・植物学会における男女共同参画の現状
　　川合真紀（埼玉大学）
・パネルディスカッション
　研究者流タイム・マネージメントを考える
　司会：佐々木成江（名古屋大学）
　パネリスト：小柳香奈子（北海道大学）
　　高橋幸弘（北海道大学）

2013 年 9 月 13 日から 15 日にかけて北海道大学札幌キャンパスで開催された日本植物学会第 77 回大会において、初日 13 日に第 4 回男女共同参画セミナーを開催しました。今回は、家庭を持つ女性研究者にも、また男性研究者にとっても非常に重要なテーマ「研究者流タイム・マネージメントを考える」をタイトルに掲げ、例年と同じくお昼休みを利用したランチョンの形式で開催されました。当日は 150 個用意したお弁当がほぼ全て配布され、会場にも広い年代の多くの方に集まっていただきました。

会に先立ってまずは戸部会長からご挨拶をいただき、続いて川合真紀男女共同参画委員から植物学会の男女共同参画活動とその現状についての報告がありました。男女共同参画委員会では、植物学会における女性の貢献を目に見える形で示すため、毎年大会時の女性の参加率を調査し、ランチョンセミナーで発表していますが、今年は座長及び受賞者における女性の比率がそれぞれ 25.7%、33.3%まで上昇したことが報告されました。

続いて、今回のメインであるパネルディスカッションが開催されました。まず司会の佐々木成江委員により、世界の先進国の中でも日本は労働時間が非常に長いというデータが紹介され、このような長時間労働がイノベーションの生まれにくい環境を作っていること、短時間で高い生産性を持つ仕事をするためのタイムマネージメントが重要であるという今回のテーマが紹介されました。その後、トピックに沿って、パネリストお二人の自己紹介及びタイムマネージメントに関して気をつけられていることが話されました。今回のパネリストはお二人とも、平日は別居で週末を一緒に過ごすというライフスタイルを選択されており、ご夫婦で協力して子育てをなさっています。平日はお子さんと二人暮らしの北大准教授小柳香奈子先生は、タイムマネージメントに関して気をつけていることとして、家事サービスを利用する、締切前倒しで進める、メールをチェックする時間を制限する、などを挙げられました。また、同大教授の高橋幸弘先生からは、まだ非常に稀な男性の育休についての体験談をお話いただきました。また、土日は出来るだけ仕事を入れず、どうしても土日に仕事が入るときはお子さんを同行させる、海外出張も出来るだけ短期間にする、など、土日のお仕事が多い奥さんと協力なさって子育てをなさっているという話をしていただきました。佐々木会員からは、家事の助けとなるサービス（シルバー人材派遣など）や家電（ルンバなど）、家でも学生とディスカッションができる Web 会議のためのソフトウェアなどが、子育てと仕事を両立させるための手段として紹介されました。

今回のパネルディスカッションは、当初、パネリストとして北海道大学の有賀早苗先生に参加していただく予定でしたが、諸事情により急遽小柳先生に参加していただきました。急なお願いとなったにもかかわらず、小柳先生には、育児と仕事の両立について現在進行形のお話しを、また、高橋先生からは男性の育児休暇取得という貴重な体験についてのお話しをいただき、これから家庭を持つ若手会員には大きな刺激、希望となったのではないかと思います。また、パネリストの方のご協力もあり、「タイムマネージメント」をテーマとした会にふさわしく、予定通り１時間で会を終えることが出来ました。

男女共同参画委員会委員・稲田のりこ

会場の様子